

会 議 録

会議の名称	第6回西東京市介護保険運営協議会
開催日時	令和2年10月8日（木曜日） 午後7時から午後8時まで
開催場所	西東京市役所 田無第二庁舎4階 会議室
出席者	（出席委員） 渡邊委員長、須加副委員長、平塚委員、伊集院委員、伊藤委員、丸山委員、酒井委員、尾林委員、小柳委員、市村委員、篠宮委員、妻屋委員、石坂委員、石井委員、松本委員、松岡委員 （欠席委員） 浅野委員 （事務局） 健康福祉部長、高齢者支援課長、介護保険担当課長、以下10人
議題	（1） 第5回会議録の確認 （2） 第7期計画の実績検証 （3） 第8期の地域密着型サービスの整備
会議資料の名称	（事前送付資料） 資料1 第7期計画の実績と検証 資料2 地域密着型サービスの整備について 資料3 第8期計画策定における国の基本指針について 参考資料 「地域密着型サービスの整備について」の参考資料 ・第5回西東京市介護保険運営協議会会議録（案）
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録

以下、敬称略

## 会 議 内 容

### 1 開会

### 2 議題

#### (1) 第5回会議録の確認

○委員長：

第5回会議録の確認を行う。内容について、修正・変更等はないか。

○委員

意見なし。

○委員長：

御承認をいただいたということで取扱いをさせていただく。事務局にて公開の手続きをお願いする。

#### (2) 第7期計画の実績検証

○委員長：

第7期計画の実績と検証について事務局より説明をお願いする。

○事務局：

第7期計画の実績と検証について説明する。(資料1に沿って説明)

○委員長：

第7期計画の実績と検証について質問、意見等があれば御発言をお願いしたい。

○副委員長：

居住系サービスは認知症対応型共同生活介護と特定施設入居者生活介護の他に何が含まれているのか。

○事務局：

居住系サービスとしては認識のとおり2つである。(その他に地域密着型特定施設入居者生活介護地域密着型特定施設入居者生活介護があるが市内にはない)

○委員：

施設系サービスは計画の推計どおりであるが、変化があるのは居住系、在宅系サービスかと思う。市としてはこの変化をどのような分析するのか。

○事務局：

在宅での支援を受けられている方が他市と比べても多く、利用率が高い状況である。在宅で安心して暮らし続けられるということにつながっているのではないかと思う。

○委員：

リハビリテーションがよく行えている結果なのかと感じている。計画値に対し150%近い数値の訪問リハビリテーションや110%近い数値の通所リハビリテーションの成果が介護度に反映できるデータがあると良いと思う。

○委員：

2ページの認定率と施設サービス、在宅サービスを見てみると、認定率の高いところがサービス利用においても上位に来ているように思う。他市と比べてその点についてはどのように考えるか。

○事務局：

認定率は3番目ということで高い状況にある。他市と比較しても中重度者の方の割合が多い。また、サービスにつながっている方が多いと考える。サービスの利用者数でいうと、要介護1、要介護2の方は在宅サービスを使う方が多いということで認定率の高さにつながっていると考えられる。

介護度別でサービスごとの利用状況を分析し、引き続き認定率の要因については分析の掘り下げが必要だと考えている。

### (3) 第8期の地域密着型サービスの整備

○委員長：

第8期の地域密着型サービスの整備について説明をお願いします。

○事務局：

第8期の地域密着型サービスの整備について説明する。(資料2に沿って説明)

○委員長：

第8期の地域密着型サービスの整備について、質問、意見等があれば御発言をお願いしたい。

○委員：

西東京市はこれまで勉強会などを通じて多職種連携に取り組んできた。看取りの場面でも医療や介護との連携がとれるようになってきている。グループホームでの看取りも増えており、スタッフの方々も慣れてきたと感じる。

○委員：

在宅を離れる方の選択肢として、一度小規模多機能を利用してからグループホームにつながる方が出てきている。

定期巡回随時対応型訪問介護看護は便利なサービスだが、外部との提携で訪問看護を確保している連携型の場合、連携先の看護がうまく入れないときがある。

看取りについては、夜間対応型と通常の訪問看護の組み合わせで利用することが多くなっている。そのため夜間対応型や定期巡回随時対応型訪問介護看護についてはもう少し増やしてほしいと感じている。

○委員：

サービスの整備状況として、認知症と認定されている方に対しても充実した対応ができる整備となっているのか。

○事務局：

認知症高齢者の方のサービスとしてはデイサービスやグループホーム等がある。市内グループホームは全12か所ある。重複もあり実人数はもう少し減るが、待機状況としては190人ほどである。充足率については、全体としての把握と実際のサービスの受給状況についての掘り下げが必要であると感じている。

○委員：

西東京市では家族向けの看取りのマニュアルについて作成されていないのか。関西で作成されているところがあると聞いたことがある。

○委員：

マニュアルではないが、終末期をどう過ごしたいかを話し合うアドバンス・ケア・プランニング（人生会議）についてのパンフレットを作成中である。

○委員：

終末期をどう過ごしたいかについては、経験上では病院から尋ねられていた。関西で作成されている家族向けの看取りマニュアルは、亡くなる直前の呼吸状態や血圧、体温の状態、このような症状がでたら訪問看護ステーションに電話しましょうといったように、具体的に記載されているものである。素人はどのような状態になったらあと数時間というようなことが分からない。特に在宅で看取る場合にはそのようなマニュアルがあれば良いと感じている。

○委員：

看取りについての書籍はたくさんあるため、マニュアルを作成することが地域で行うべきことかどうか疑問である。

○委員：

各訪問看護ステーションや医療機関施設でそのようなパンフレットを作っている場合がある。

○委員：

3 ページからも西東京市は地域密着型通所介護が 38 施設あることや、グループホームも 11 施設と多いことから、かかりつけ医と病院との連携の仕組みが進んでいるのではないかと感じている。個別ケアを考えたときには地域密着型のグループホームや通所介護の充実が今後求められていくのではないかと思う。大きな施設を建てるというよりは、今後は小さなものをうまく連携していくことが必要になってくると思う。

○委員：

グループホームに入れば良いというわけではない。西東京市ではそれを支える通所介護がこれだけ充実していることは、近未来のあるべき姿なのかもしれないと感じている。個別ケアや家族の介護負担を一時的に軽減できる環境、また、そこに大きく関わるポイントとしての情報共有の在り方を、もう一歩進めて取り組んでいくと良いと思う。

### 3 その他

○事務局：

第7回会議の日程について説明

### 4 閉会